

昭和50年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和50年度冬作関係除草剤の作用性および適用性試験成績検討会は、昭和51年9月1日、国立教育会館（東京）において開催した。

昭和50年度冬作関係の供試薬剤は14薬剤であり、作用性試験として5点、適用性試験として39点が実施された。供試薬剤の成分は、第1表に示す通りである。

検討会は、試験担当者より試験結果の報告があり、検討の結果、実用化に対する判定を行なった。その概要は次の通りである。

麦類に対しては、適用性試験に7剤、作用性試験に1剤が供試されたが、このうち3剤が実用化可能（ただし3剤とも更に継続検討課題があり）、4剤が更に継続検討を要する、と判定された。作用性試験供試薬剤については、効果不十分につき増量検討が必要とのコメントが出された。

いぐさについては、3剤が供試されたが、1剤が「実」、1剤が「実・継」、1剤が「継」、との判定であった。「実」もしくは「実・継」と判定された2剤は、昨年すでに「実・継」の判定が出たもので、本年は効果の確認と薬害についての増量試験（一種の虐待試験）を実施したものである。その結果、薬害的な問題はなく、一部地域拡大、使用時期拡大が認められた。

水稻刈跡では、作用性試験に1剤、適用性試験に1剤が供試されたが、作用性試験に供試さ

れたものはミズガヤツリに適用性があるとのコメントが出され、適用性試験での効果が期待でき有望であるので「継」と判定された。

また、いぐさ対象の生育調節剤として、 CaO_2 が供試されたが、試験条件にやゝ問題があったものの、一応の効果が期待できそうで、今後、排水不良の還元田や推肥多量施用田などでの検討が待たれるので、判定は「継」とされた。

最後に、本検討会の結果、決定した事項を記すと次のようである。

- 1). 麦類用除草剤については、麦類の種類を今後明確にする。すなわち、委託、判定ともに種類別に行う（とくに小麦、二条大麦への適用について、はっきり区別させたい）。
- 2). 水稻刈跡用除草剤については、対象1、草種を1単位とする。すなわち、ウリカワ対象、ミズガヤツリ対象、コウキヤガラ対象、クログワイ対象等とし、各々1単位とする。

<参考> イグサの栽培面積について(S.50作付)

県名	栽培面積	県名	栽培面積
熊本	5,100 ^{ha}	大分	60 ^{ha}
福岡	1,560	香川	54
岡山	500	宮崎	40
高知	585	その他	271
広島	130		
石川	80	全国計	8,380

(S.49は全国計10,700haであった。)

第1表 昭和50年度冬作関係委託薬剤成分および判定結果一覧

A 除草剤

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判定	判定理由および内容
I 麦 類	1). B-3015 ・ P	粒	・ S-(4-クロロベンジ ル)N,N-ジエチルチ オールカーバメイト(ベン チオカーブ) …8% ・ 2-メチルメルカプト- 4,6-ビスイソプロピ ルアミノ-S-トリア ジン(プロメトリン) …0.8%	クミアイ 化 学 工 業	適用性	実, 継	実: 第2表参照. 継: 覆土, 沈圧を十 分に行った圃場で の薬害の再検討.
	2). ANK-553	乳	・ N-(1-エチルプロピ ル)3,4-ジメチル-2,6 -ジニトロベンゼンア ミン 30%	ANK 研究会	適用性	継	覆土深について再検 討.
	3). KWH- 752 A	水和	・ 未公開 (2種混合) 48%	協 和 醗 酵	適用性	継?	薬量を減量して検討 する.
	4). KWH- 752 B	水和	・ 未公開 (2種混合) 66%	同 上	適用性	継?	同 上
	5). S-28	乳	・ 0-エチル-0-(3- メチル-6-ニトロフ エニル)-N-セカンダ リーブチルホスホロチ オアミデート 50%	クレマート 研 研 会	適用性	実, 継	実: 第2表参照. 継: 小麦, 大麦(裸 麦, 皮麦)について は, 品種間抵抗性 がありそうなので 十分検討する. 洪 積畑での検討.
	6). MO-338	乳	・ 2,4,6-トリクロルフ エニル-4-ニトロフ エニルエーテル 20%	三井東圧化学	適用性	実, 継	実: 使用基準参照. 継: 除草効果の再検 討.
	7). SL-55・ MCP	水和	・ 2-クロロ-1-(4- ニトロフェノキシ)-4- トリクロロメチルベン ゼン 40% ・ 2-メチル-4-クロロ フェノキシ酢酸ナトリ ウム 19.5%	石 原 産 業	適用性	継	薬害について再検討.
	8). SL-50	水和	・ 未公開 (2種混合) 69.5%	同 上	作用性	—	効果不足のため増量 して再検討.
II. いぐさ	1). G-315	乳	・ 5-tert-ブチル-3-	ロンスター	適用性	継	植付後の水管理を含

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判定	判定理由および内容
II. (つづき)			(2,4-ジクロル-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾリン-2オン 12%	普 及 会			め減量して、再検討。
	2). S-28	粒	・0-エチル-0-(3-メチル-6-ニトロフェニル)-N-セカンダリ-ブチルホスホロチオアミデート 7%	住 友 化 学	適用性	実, 継	実: 第2表参照。 継: 処理適期の拡大検討。冬雑草防止も期待できる。
	3). S-28・DBN	粒	・S-28 (前掲) 7% ・2-6-ジクロルベンゾニトリル 2%	住 友 化 学	適用性	実	実: 第2表参照。
III. 水稲 刈跡	1). DPX-1108	液	・アンモニウムエチルカーバモイルホスホネート 42%	デュボン・ファースト 日 本 支 社	作用性 適用性	継	年内の塊茎形成期に処理して翌年の再生を防止する効果が期待できる。
	2). MB-88 D	水和	・3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素. (DCMU) 25% ・MB-88 (有機化合物) 35%	丸 和 バイオケミカル	作用性	—	ミズガヤツリの塊茎形成前処理で適用性あり。

B 生育調節剤

対象・作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判定	判定理由および内容
い ぐ さ	1). カルパー	粒	・CaO ₂ 50%	カルパー 研 究 会	適用性	継	排水不良田, 推肥多量施用田で検討する。

第2表 昭和50年度冬作関係実用化除草剤使用基準一覧

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
麦 類	B-3015・P粒	土壌処理	播種後	㊤ 400~500 g/a	壤土~埴土	温暖地 西部以西 (小麦)	1). 覆土の土塊の大きな場合には使用しない。 (水田裏作)
				300 g/a	砂壤土	暖 地 (二条大麦)	

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
麦類の つづき	S-28 乳	土壌処理	播種後	㊤ 20～30 ml/a	埴埴土	温暖地東部 (二条大麦)	(水田裏作)
	MO-338乳	土壌処理	播種後	㊤ 125～150 ml/a	埴土～埴土	温暖以西	1). 禾本科優占地帯 で使用する。 (水田裏作)
いぐさ	S-28 粒	土壌処理	3月下旬～ 4月中旬 (ノビエ出 芽始)	㊤ 300～400 g/a	埴土～埴土 (0.5 cm/日 以下)	温暖地西部 以西	1). 冬雑草をDBN粒 剤散布によって防 除した後使用する。
	S-28・ DBN粒	茎葉兼土壌 処理	2月上旬～ 4月上旬 (発生始)	㊤ 400～500 g/a	埴土～埴土 (0.5 cm/日 以下)	温暖地西部 以西	1). 漏水田では使用 しない。 2). 冬雑草の多い水 田では散布時期を 早める。

昭和51年度水稻作関係除草剤 第 1 次適用性試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和51年度、水稻作関係除草剤第1次適用性試験について、昭和51年7月31日に四国地域(愛媛県農試)において、試験担当者、専門調査員、当協会関係者が参会し、中間現地検討会を開催した。その結果、本年度は各地域とも試験は順

調に進められたとの報告であった。

また、昭和51年9月1日には国立教育会館において中央検討会を開催し、最終的に試験成績を検討し、判定を行った。

その判定結果は次のとおりである。

昭和51年度水稻関係除草剤第一次適用性試験成績判定結果一覧表

No	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	試 験 場 所	判 定
1.	HOK-761	粒	・既知化合物(未公開) 7.5%	(稚苗)北海道、東北、北 陸、近畿中国、九 州。(5カ所)	田植前後土壌処理で適-2 試験に移す。 1年生・マツバイ・ホタル イ・ヘラオモダカ対象。 (ウリカワに対しても初期抑